

☆問42～問44-2までは20歳以上の方のみ伺います☆

問42 喫煙状況

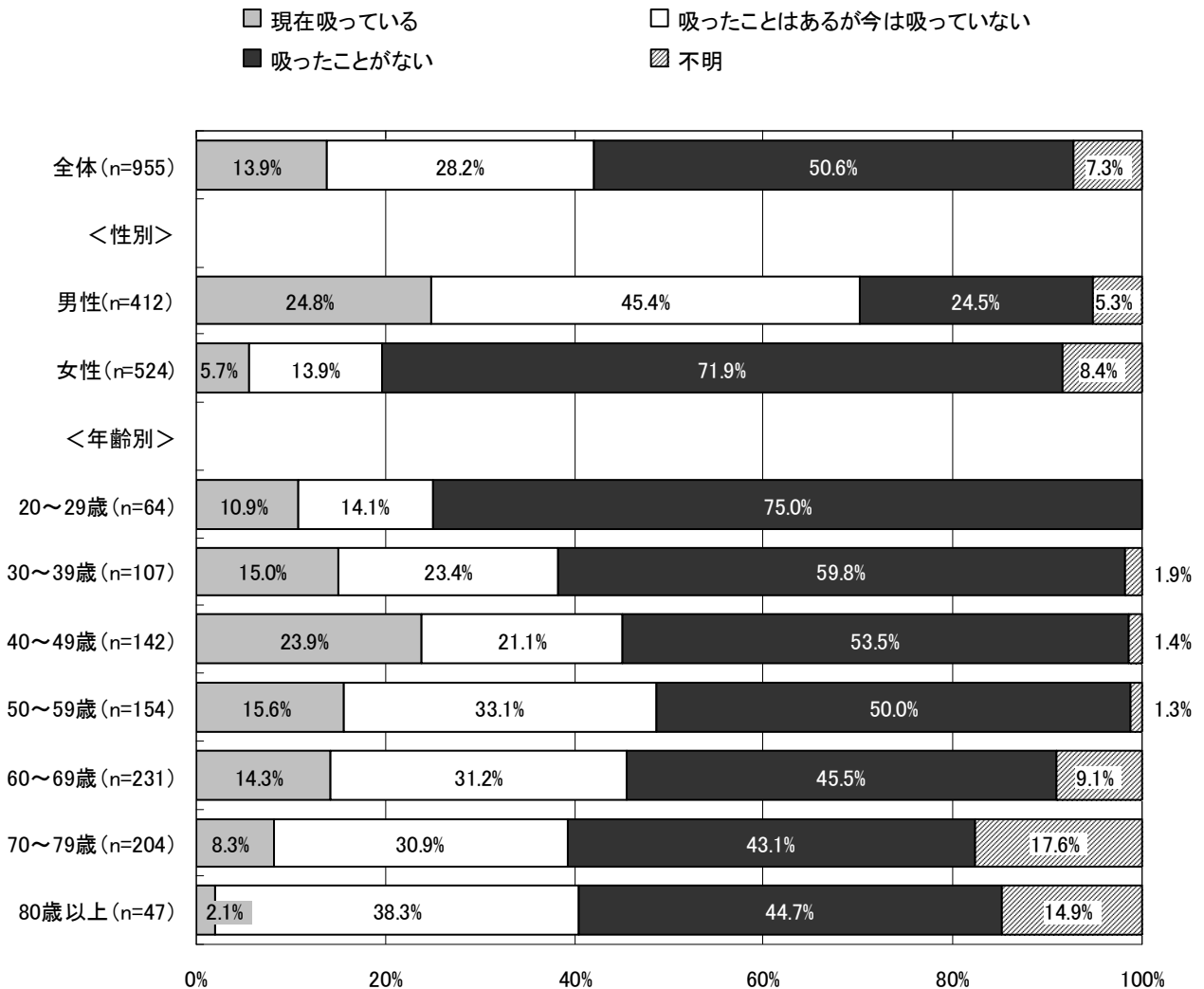
あなたは、タバコを吸っていますか？

- 1. 現在吸っている
- 2. 吸ったことはあるが今は吸っていない
- 3. 吸ったことがない

18～19歳以外の955人のうち、「吸ったことがない」の割合が50.6%と最も高く、「現在吸っている」(13.9%)と「吸ったことはあるが今は吸っていない」(28.2%)を合わせた42.1%が吸ったことがあるとしている。

性別にみると、「現在吸っている」割合は男性(24.8%)が女性(5.7%)より19.1ポイント上回っている。

年齢別にみると、「現在吸っている」割合は40歳代が23.9%と最も高く、「吸ったことはあるが今は吸っていない」割合は80歳以上が38.3%と最も高くなっている。



問 42-1 喫煙本数・喫煙期間

問 42 で「1. 現在吸っている」又は「2. 吸ったことはあるが今は吸っていない」と回答された方のみお答えください。

「一日の平均喫煙本数」は何本ですか () 本

「喫煙期間」は何年ですか () 年

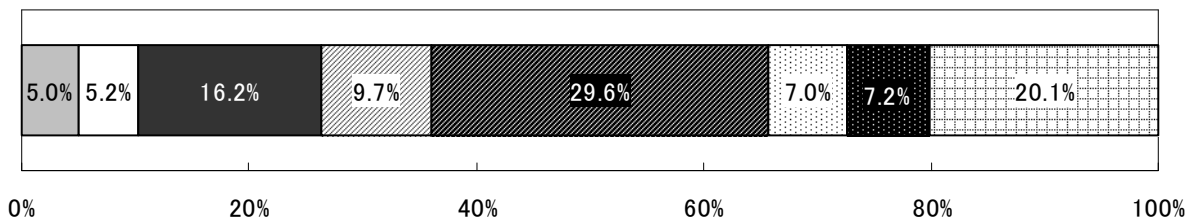
問 42 で「現在吸っている」または「吸ったことはあるが今は吸っていない」と回答した 402 人のうち、一日の平均喫煙本数の割合は「20～30 本未満」(29.6%) が最も高く、次いで「10～15 本未満」(16.2%) となっている。

喫煙期間の割合は「40 年以上」が 18.4% と最も高く、次いで「20～30 年未満」(17.7%)、「30～40 年未満」(17.2%) となっている。

【一日の平均喫煙本数】

n=402

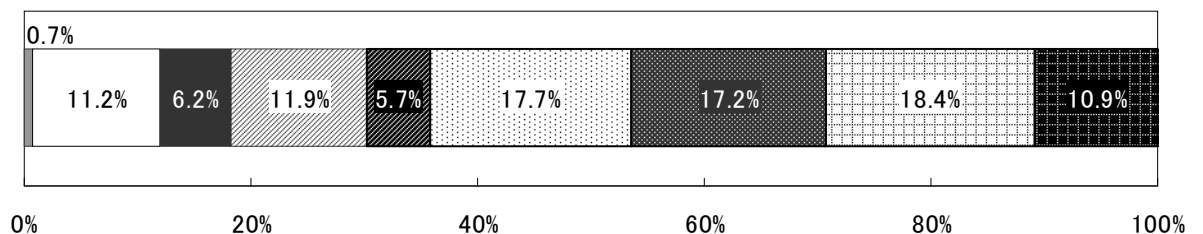
■ 1～5本未満	□ 5～10本未満	■ 10～15本未満	▨ 15～20本未満	▩ 20～30本未満
▨ 30～40本未満	■ 40本以上	□ 不明		



【喫煙期間】

n=402

■ 1年未満	□ 1～5年未満	■ 5～10年未満	▨ 10～15年未満	▩ 15～20年未満
▨ 20～30年未満	■ 30～40年未満	□ 40年以上	■ 不明	



問 42-2 禁煙の意向

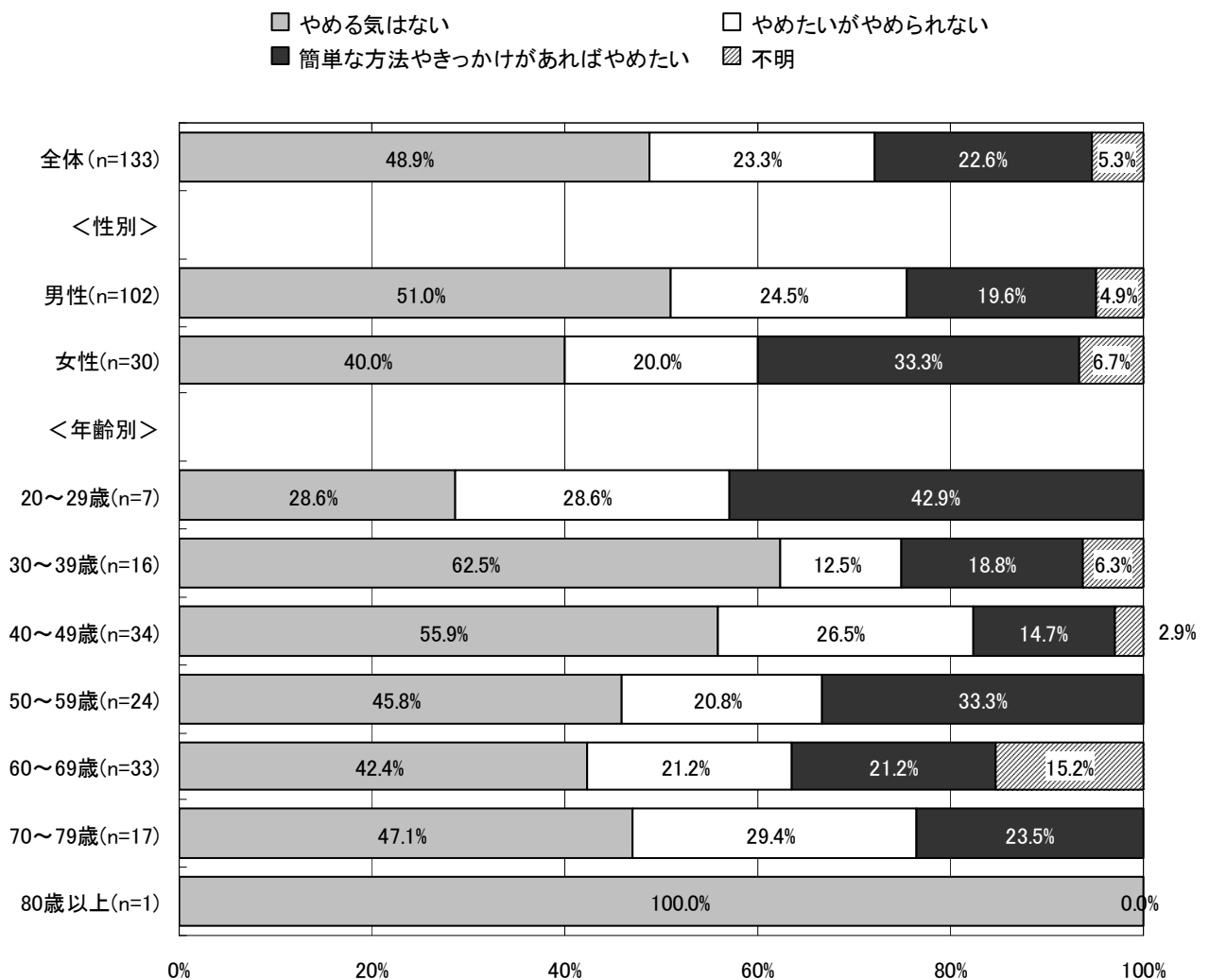
問 42 で「1. 現在吸っている」と回答された方のみお答えください。
最も当てはまるもの1つをお選びください。

1. やめる気はない
2. やめたいがやめられない
3. 簡単な方法やきっかけがあればやめたい

問 42 で「現在吸っている」と回答した 133 人について、「やめる気はない」の割合が 48.9%と最も高く、次いで「やめたいがやめられない」(23.3%)、「簡単な方法やきっかけがあればやめたい」(22.6%)の順となっている。

性別にみると、「やめる気はない」の割合は男性(51.0%)が女性(40.0%)より 11.0 ポイント上回っている。

年齢別にみると、20 歳代は「簡単な方法やきっかけがあればやめたい」の割合が 42.9%と他の項目より高く、20 歳代以外の年齢層は、「やめる気はない」の割合が他の項目よりも高くなっている。

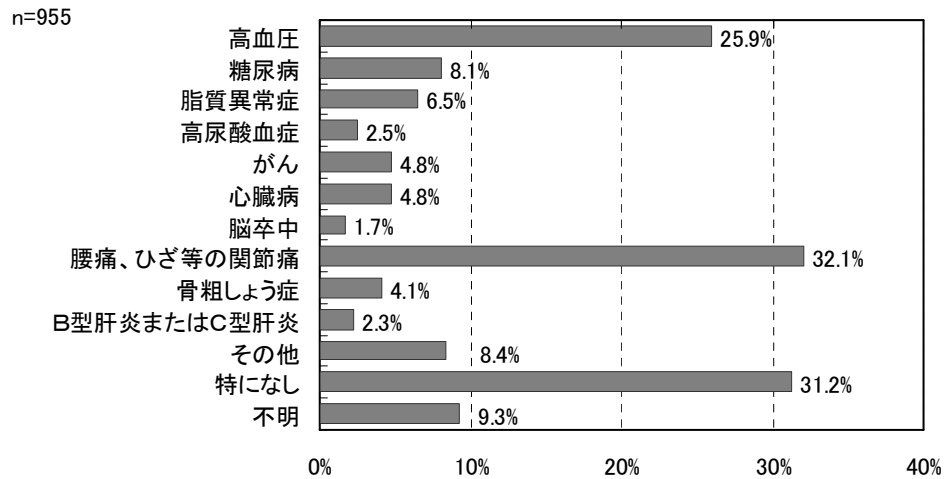


問 43 病気・症状について

あなたが、つぎの病気・症状の中で、今までにかかった、又は今かかっているものはありますか？該当するものをすべてお選びください。

1. 高血圧 2. 糖尿病 3. 脂質異常症 4. 高尿酸血症 5. がん
 6. 心臓病 7. 脳卒中 8. 腰痛、ひざ等の関節痛 9. 骨粗しょう症
 10. B型肝炎又はC型肝炎 11. その他（ ） 12. 特になし

「腰痛、ひざ等の関節痛」の割合が32.1%と最も高く、次いで「高血圧」(25.9%)となっている。その他の病気・症状は10%を超えるものはなく、「特になし」が31.2%となっている。



その他：「パーキンソン病」、「メニエール」、「腎臓病」、「慢性関節リュウマチ」など

問 44 がん検診について

あなたは、定期的に、がん検診（胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がんのいずれか）を受けていますか？

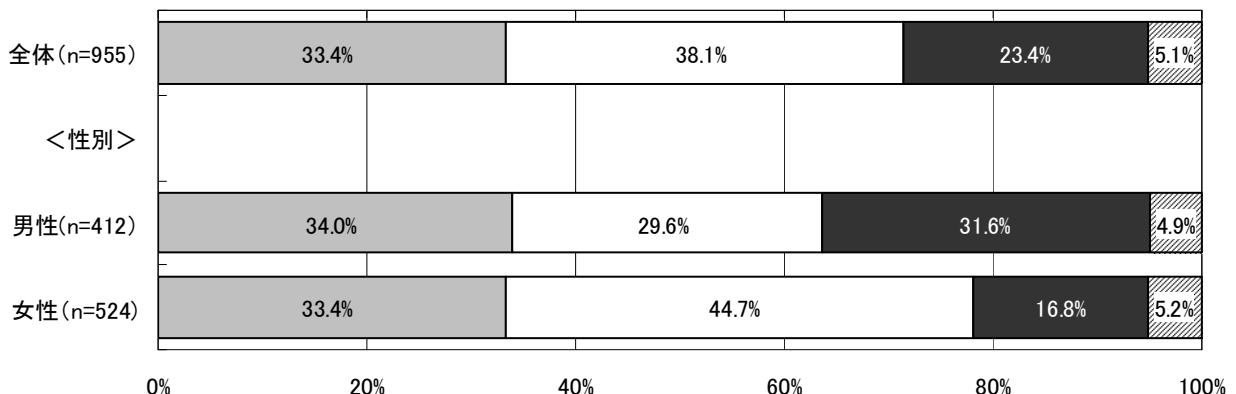
1. 定期的に受けている 2. 定期的には受けていない 3. 一度も受けたことがない

※ 定期的な検診とは、「胃がん・肺がん・大腸がん」は1年に1回、「子宮頸がん・乳がん」は2年に1回の検診を受けることです。

「定期的には受けていない」の割合が38.1%と最も高く、「定期的に受けている」は33.4%、「一度も受けたことがない」は23.4%となっている。

性別にみると、「定期的に受けている」の割合は差がなく、「一度も受けたことがない」の割合は男性（31.6%）が女性（16.8%）より14.8ポイント上回っている。

□ 定期的に受けている □ 定期的には受けていない ■ 一度も受けたことがない ▨ 不明



問 44-1 がん検診の種類について

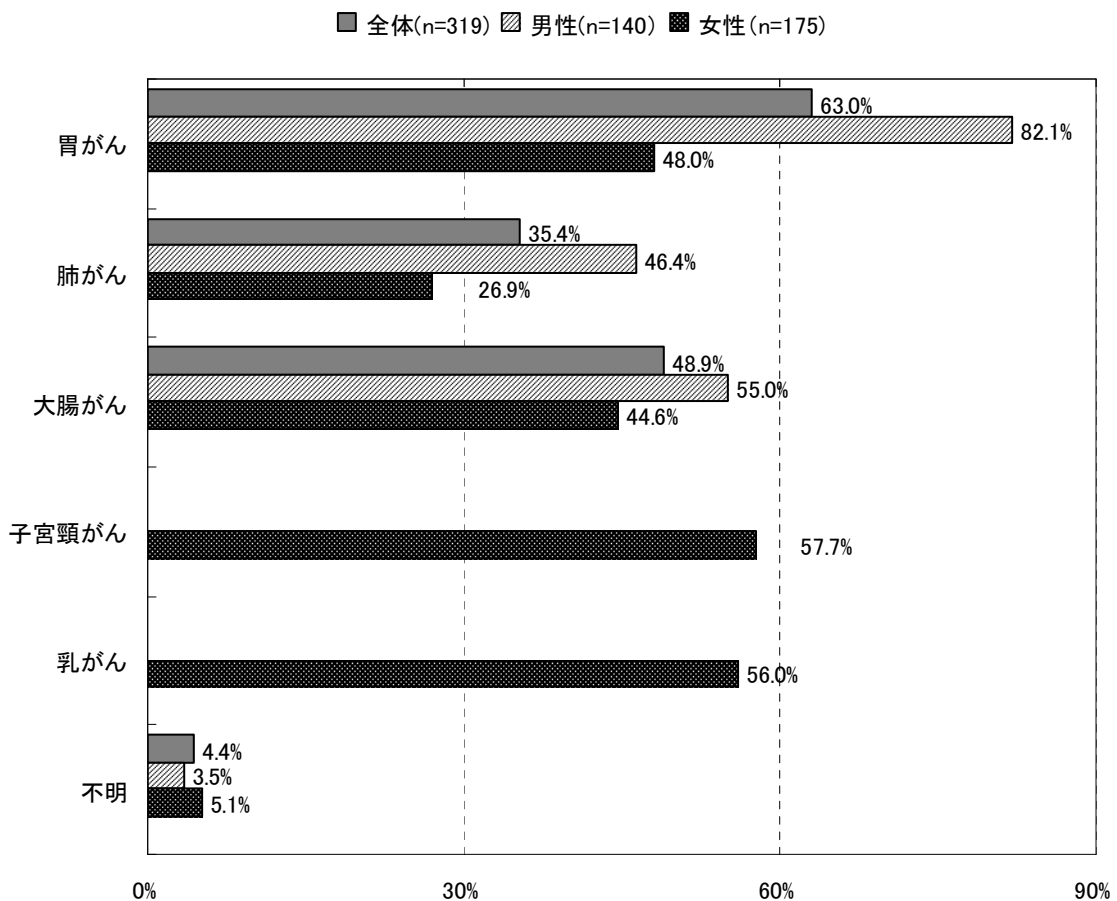
問 44 で「1. 定期的に受けている」と回答された方のみお答えください。
定期的に何の検診を受けていますか？該当するものをすべてお選びください。

1. 胃がん 2. 肺がん 3. 大腸がん 4. 子宮頸がん 5. 乳がん

問 44 で「定期的に受けている」と回答した 319 人について、「胃がん」の割合が 63.0%と最も高く、次いで「大腸がん」(48.9%)、「肺がん」(35.4%)の順となっている。

性別にみると、男性は「胃がん」(82.1%)が最も高く、女性は「子宮頸がん」(57.7%)となっている。

※「子宮頸がん」と「乳がん」については女性のみの検診となっている。

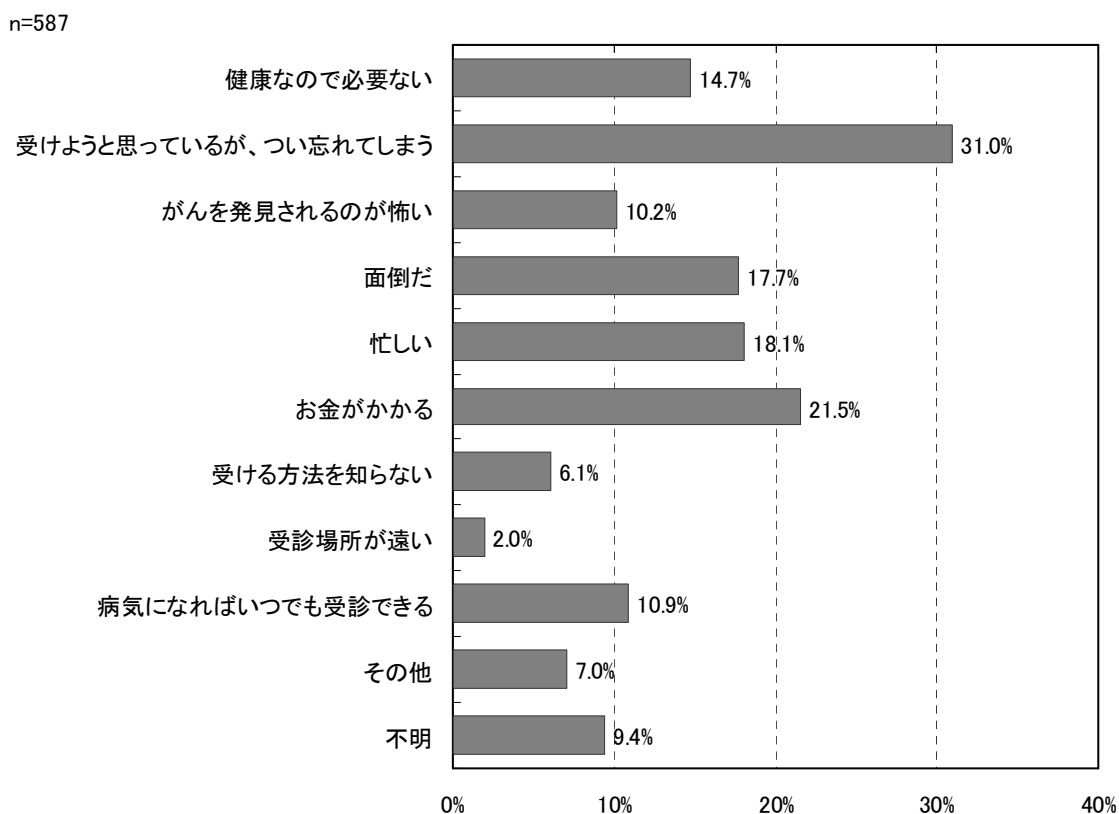


問 44-2 がん検診を受けない理由

問 44 で「2. 定期的には受けていない」「3. 一度も受けたことがない」と回答された方のお答えください。その理由は何ですか？該当するものをすべてお選びください。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 健康なので必要ない | 2. 受けようと思っているが、つい忘れてしまう |
| 3. がんを発見されるのが怖い | 4. 面倒だ |
| 5. 忙しい | 6. お金がかかる |
| 7. 受ける方法を知らない | 8. 受診場所が遠い |
| 9. 病気になればいつでも受診できる | 10. その他 () |

問 44 で「定期的には受けていない」、「一度も受けたことがない」と回答した 587 人について、「受けようと思っているが、つい忘れてしまう」の割合が 31.0%と最も高く、次いで「お金がかかる」(21.5%)、「忙しい」(18.1%) の順となっている。



その他：「40歳からでいいと考えている」、「かかりつけ医がいるので」など

問 45 「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」の認知度

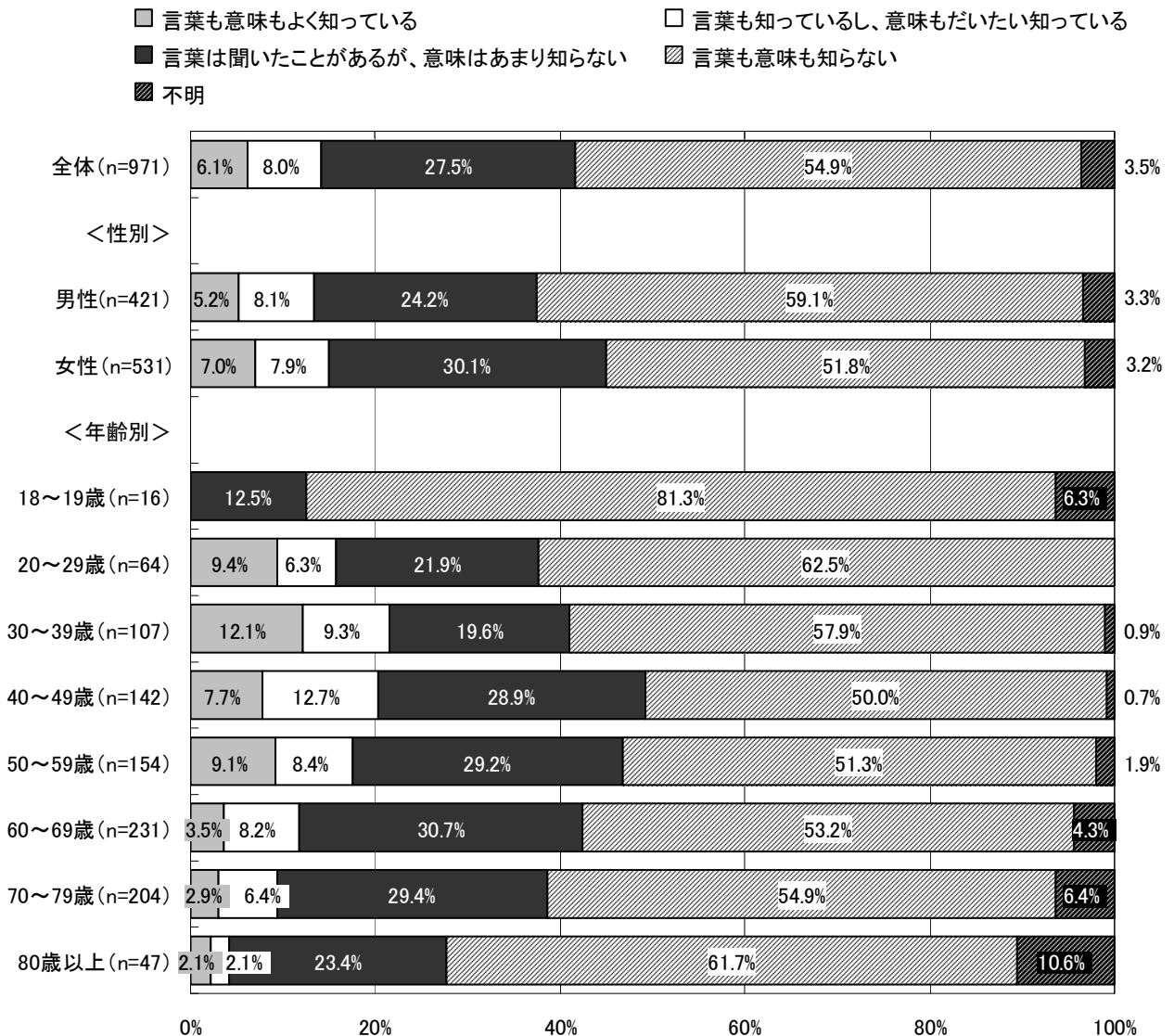
あなたは、「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」という病気を知っていますか？

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っているし、意味もだいたい知っている
3. 言葉は聞いたことがあるが、意味はあまり知らない
4. 言葉も意味も知らない

「言葉も意味もよく知っている」(6.1%)と「言葉も知っているし、意味もだいたい知っている」(8.0%)を合わせた認知率は14.1%、「言葉は聞いたことがあるが、意味はあまり知らない」は27.5%、「言葉も意味も知らない」は54.9%となっている。

性別にみると、認知率は女性(14.9%)が男性(13.3%)よりやや上回っている。

年齢別にみると、認知率は30歳代(21.4%)と40歳代(20.4%)が20%を超え、他の年齢層よりやや高くなっている。



問 46 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」の認知度

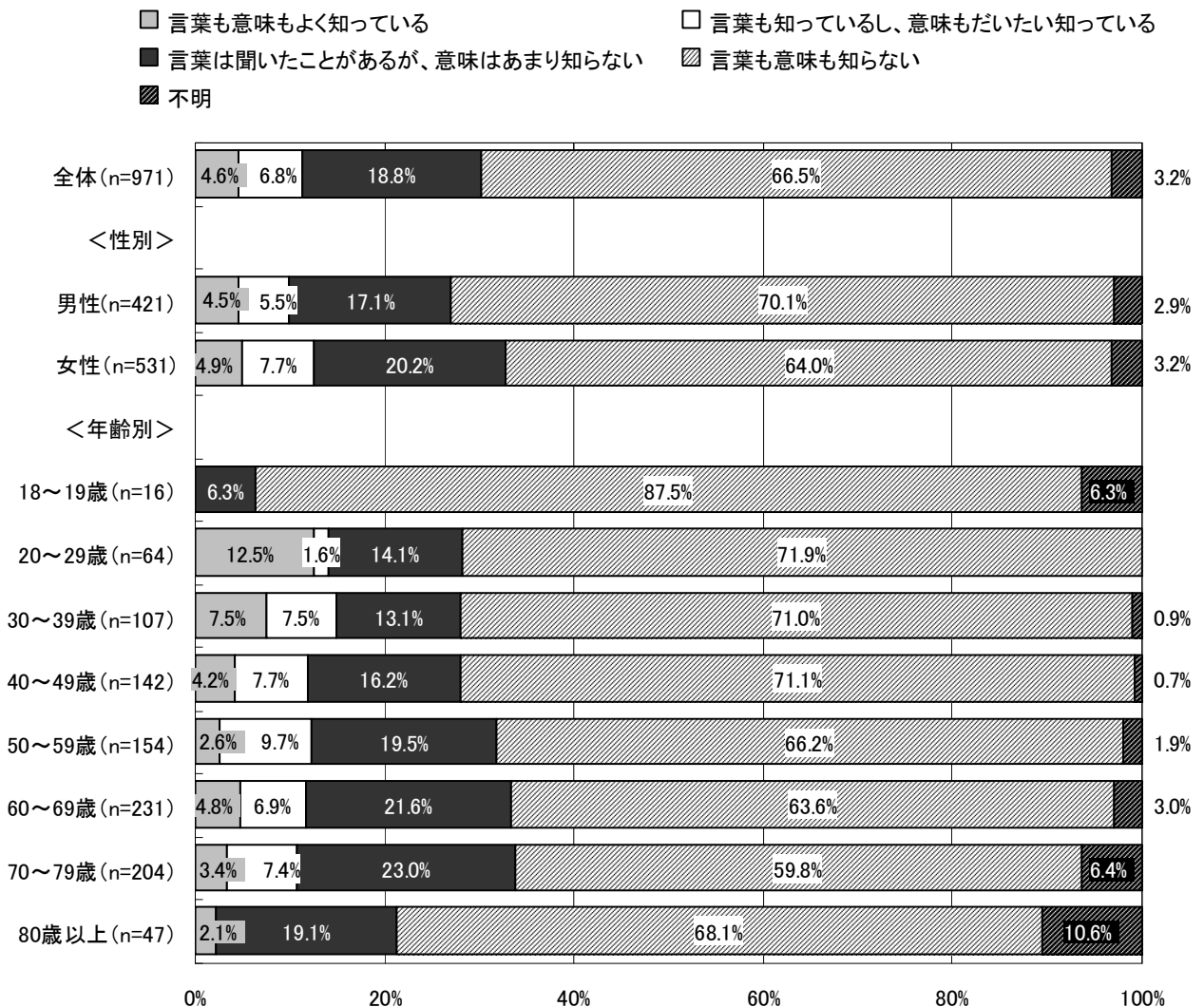
あなたは、「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」という言葉を知っていますか？

1. 言葉も意味もよく知っている
2. 言葉も知っているし、意味もだいたい知っている
3. 言葉は聞いたことがあるが、意味はあまり知らない
4. 言葉も意味も知らない

「言葉も意味もよく知っている」(4.6%)と「言葉も知っているし、意味もだいたい知っている」(6.8%)を合わせた認知率は11.4%、「言葉は聞いたことがあるが、意味はあまり知らない」は18.8%、「言葉も意味も知らない」は66.5%となっている。

性別にみると、認知率は女性(12.6%)が男性(10.0%)よりやや上回っている。

年齢別にみると、認知率は30歳代が15.0%と他の年齢層よりやや高くなっている。



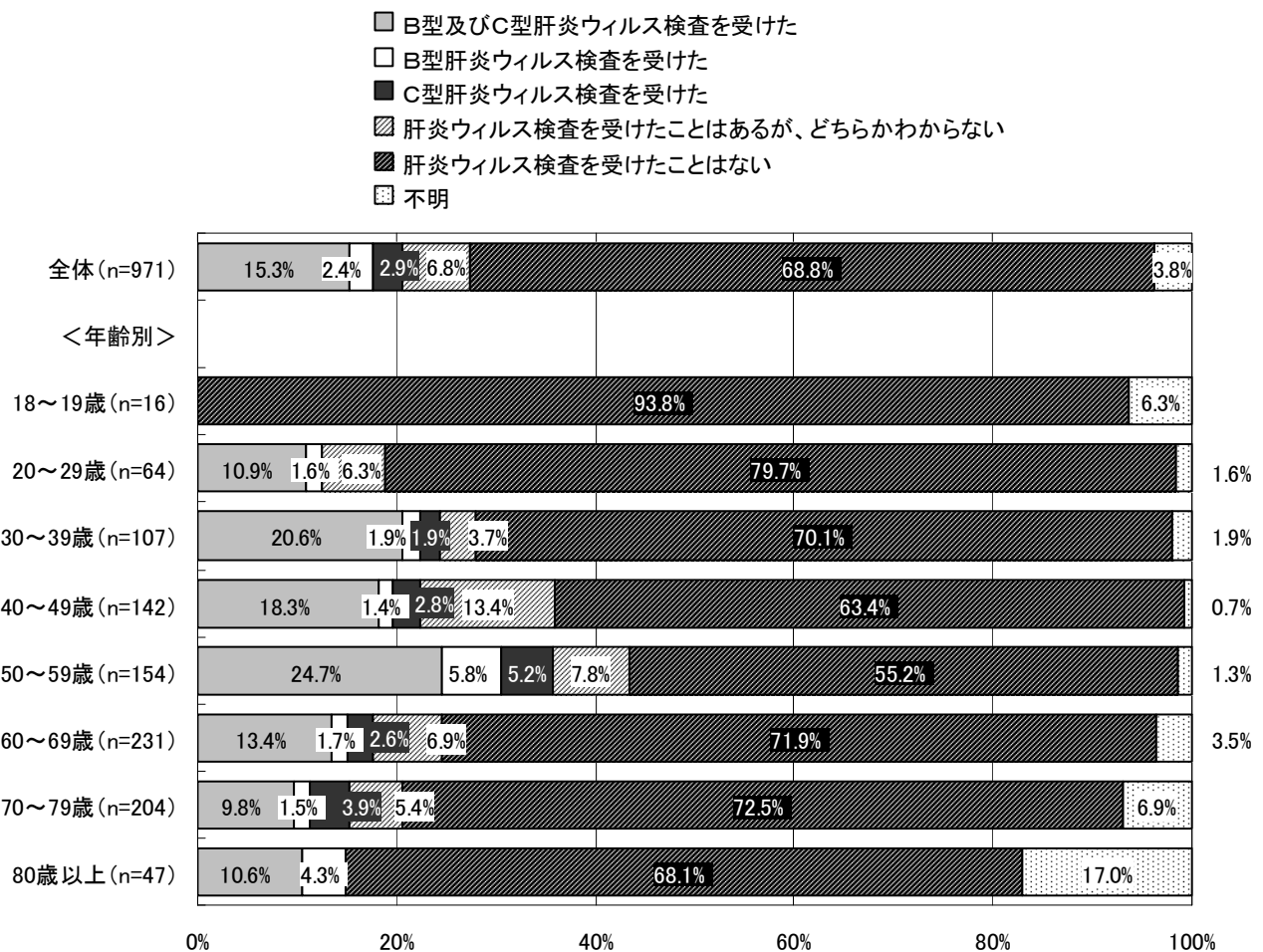
問 47 B型及びC型肝炎ウイルス検査について

あなたは、B型及びC型肝炎ウイルス検査を受けたことがありますか？

1. B型及びC型肝炎ウイルス検査を受けた
2. B型肝炎ウイルス検査を受けた
3. C型肝炎ウイルス検査を受けた
4. 肝炎ウイルス検査を受けたことはあるが、どちらかわからない
5. 肝炎ウイルス検査を受けたことはない

肝炎ウイルス検査を受けたことがある割合（「B型及びC型肝炎ウイルス検査を受けた」15.3%と「B型肝炎ウイルス検査を受けた」2.4%と「C型肝炎ウイルス検査を受けた」2.9%と「肝炎ウイルス検査を受けたことはあるが、どちらかわからない」6.8%の計）は27.4%、「肝炎ウイルス検査を受けたことはない」は68.8%となっている。

年齢別にみると、肝炎ウイルス検査を受けたことがある割合は50歳代が43.5%と最も高く、次いで40歳代が35.9%となっている。

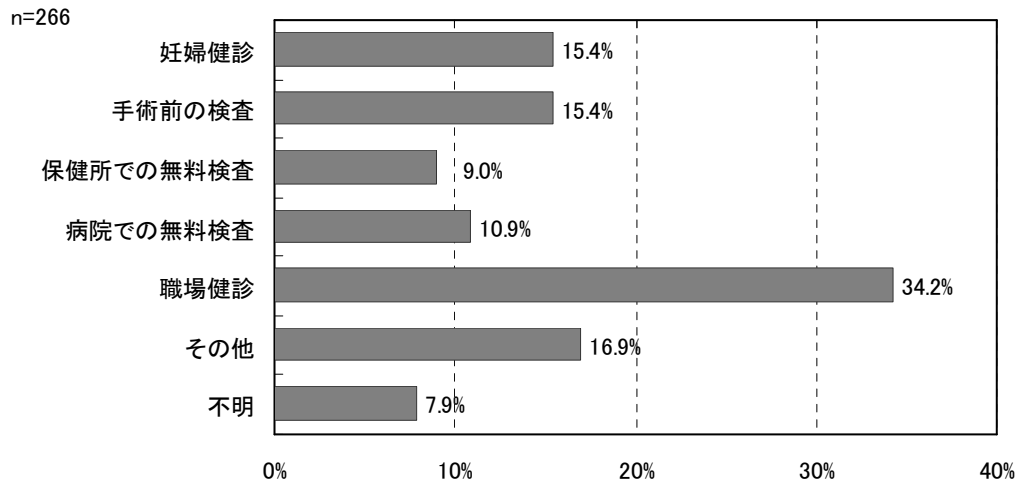


問 47-1 肝炎ウイルス検査の受診について

問 47 で肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答された方のみお答えください。
 肝炎ウイルス検査は何で受けましたか？該当するものをすべてお選びください。

1. 妊婦健診 2. 手術前の検査 3. 保健所での無料検査
 4. 病院での無料検査 5. 職場健診 6. その他 ()

問 47 で「肝炎ウイルス検査を受けたことがある」と回答した 266 人について、「職場健診」が 34.2%と最も高く、次いで「妊婦健診」(15.4%)、「手術前の検査」(15.4%) の順となっている。



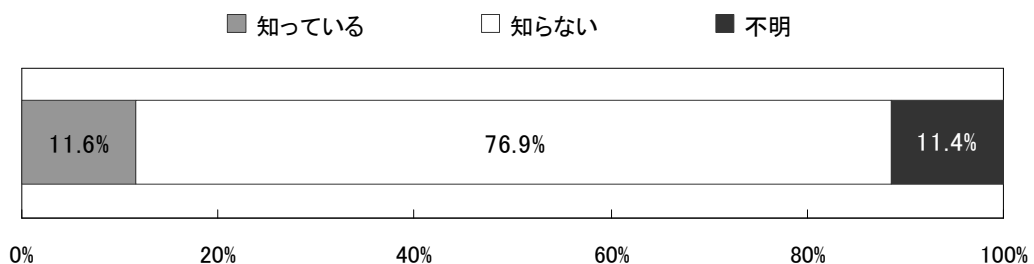
その他：「親族がC型肝炎のため検査をした」、「かかりつけ医の勧め」、「人間ドック」など

問 48 和歌山市保健所での無料肝炎ウイルス検査の実施について

和歌山市保健所で「肝炎ウイルスの感染の恐れがあったが、今まで検査を受けたことがない方」を対象に無料の肝炎ウイルス検査を実施していることを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

「知っている」は 11.6%、「知らない」は 76.9%となっている。



問 49 B型及びC型肝炎ウイルスの感染経路

B型及びC型肝炎ウイルスの感染経路として該当していると思うものをすべてお選びください。

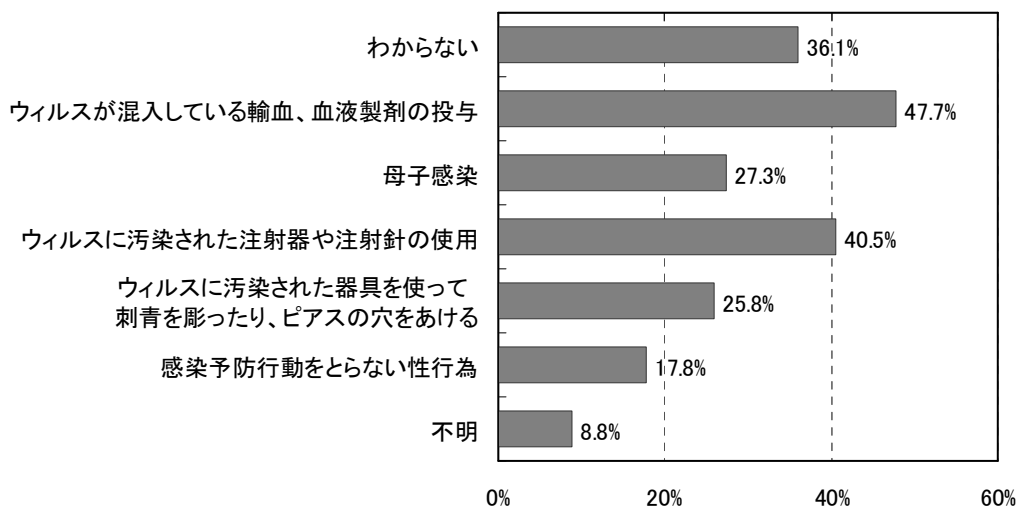
a. B型肝炎ウイルスの感染経路について

b. C型肝炎ウイルスの感染経路について

1. わからない
2. ウィルスが混入している輸血、血液製剤の投与
3. 母子感染
4. ウィルスに汚染された注射器や注射針の使用(覚せい剤の回し打ちなど)
5. ウィルスに汚染された器具を使って刺青を彫ったり、ピアスの穴をあける
6. 感染予防行動をとらない性行為

「B型肝炎ウイルス」と「C型肝炎ウイルス」の感染経路として思うものは、「ウィルスが混入している輸血、血液製剤の投与」の割合が高く、次いで「ウィルスに汚染された注射器や注射針の使用」の順となっている。

< a. B型肝炎ウイルスの感染経路と思うもの >



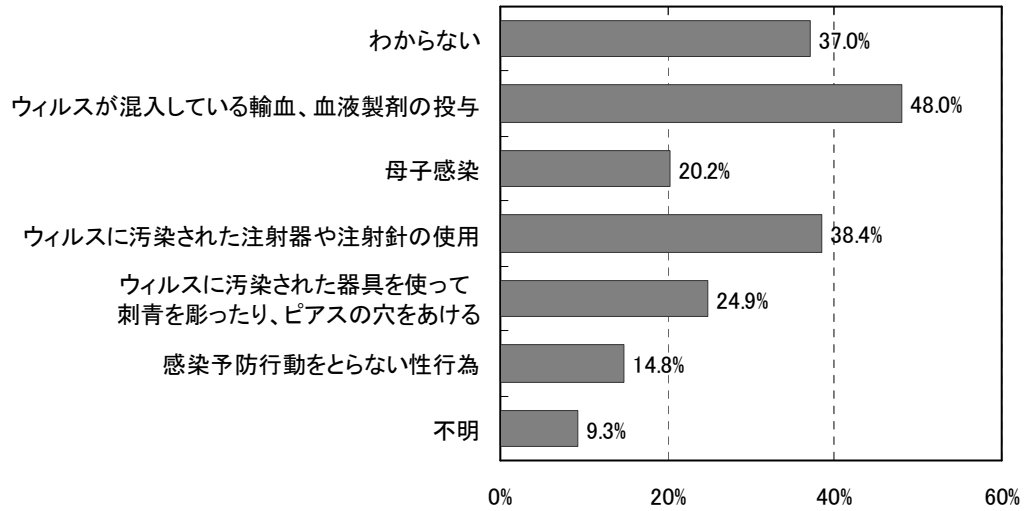
< B型肝炎ウイルスの主な感染経路 >

B型肝炎ウイルスは、主として感染している人の血液が他の人の血液の中に入ることによって感染します。また、感染している人の血液中のB型肝炎ウイルスの量が多い場合は、その人の体液などを介して感染することもあります。

具体的には、以下のような場合に感染することもあります。

- ・ ウィルスが混入している輸血、血液製剤の投与
- ・ 母子感染（適切な母子感染予防措置を講じた場合は、感染することはほとんどありません。）
- ・ ウィルスに汚染された注射器や注射針の使用（覚醒剤の回しうちなど）
- ・ ウィルスに汚染された器具を使って刺青を彫ったり、ピアスの穴をあける
- ・ 感染予防行動をとらない性行為

< b. C型肝炎ウイルスの感染経路と思うもの >



< C型肝炎ウイルスの主な感染経路 >

C型肝炎ウイルスは、主として感染している人の血液が他の人の血液の中に入ることによって感染します。

具体的には、以下のような場合に感染することがあります。

- ・ウイルスが混入している輸血、血液製剤の投与
- ・ウイルスに汚染された注射器や注射針の使用（覚醒剤の回しうちなど）
- ・ウイルスに汚染された器具を使って刺青を彫ったり、ピアスの穴をあける

※ごくまれに母子感染や性行為で感染する場合があります。

B型及びC型肝炎ウイルスともに食事やトイレ、公衆浴場など日常生活の場で感染することはほとんどありません。

問 50 B型及びC型肝炎ウイルスへの認識

B型及びC型肝炎ウイルスについて知っていることは何ですか？該当するものをすべてお選びください。

1. B型及びC型肝炎ウイルスについて知っていることはない
2. B型もしくはC型肝炎ウイルスに感染し慢性肝炎を発症した場合、放っておくと肝硬変や肝がんに進展する恐れがある
3. B型肝炎ウイルスによる慢性肝炎では、核酸アナログ製剤及びインターフェロン治療において治療費の助成制度が存在する
4. C型肝炎ウイルスによる慢性肝炎では、インターフェロン治療において治療費の助成制度が存在する
5. 肝炎ウイルス検査は、現在、妊婦健診でも実施している
6. 肝炎ウイルス検査を手術前に実施している医療機関もある
7. B型及びC型肝炎ウイルスは、日常生活(食事・共同浴場・トイレ・握手・抱擁など)では感染しない
8. その他 ()

B型及びC型肝炎ウイルスについて知っていることは、「B型もしくはC型肝炎ウイルスに感染し慢性肝炎を発症した場合、放っておくと肝硬変や肝がんに進展する恐れがある」の割合が55.0%と最も高く、次いで「B型及びC型肝炎ウイルスは、日常生活では感染しない」(32.2%)の順となっている。

※全ての選択肢は、B型及びC型肝炎ウイルスの正しい情報です。

